

Comparative Asian Research Network
Monthly Lecture Series on Issues and Research in the Asian Region
Organized by the Department of Japanese Studies, CUHK

All are Welcome!!

日本語の名詞が畳語の形で擬態的な意味を表す問題について —コーパスの役割も同時に考える—

Speaker: 徐一平教授

北京日本学研究中心主任・教授・博士生導師

Date: 10 April 2015 (Friday)

Time: 11:00-12:30

Venue: Leung Kau Kui Building, Room 401

Language: Japanese

Abstract:

日本語の名詞には「子供子供した小動物」や「田舎田舎した部落」といったような形式で使われる現象がある。このように使われた場合には、「如何にも何々らしい様子をしている」というような擬態的な意味が発生する。しかし、どのような名詞にはこのような使われ方ができるのか、どうしてこのような現象が現れたのかなどの問題については明らかにされていない。

本講座は、コーパスを利用してこの問題を明らかにすると同時に、コーパス研究の役割、特にあまり一般的ではないが、しかし研究する価値のある言語現象を究明するときの役割についても論じてみる。